

労働災害の約8割は、停車時に発生

停車中の危険は、すぐ側に

トラックへの積み込み作業中に熱中症編

労働災害は、いつ発生するかわかりません。しかし、事前の対策によりその多くは防止できるでしょう。今回はトラックに廃材を積み込む作業中に熱中症を発症した事例および対策を紹介します。

災害例

炎天下での作業中に意識を失った

作業者は真夏の炎天下、住宅の増築工事で解体した瓦や屋根材をダンプトラックに積み込んでいた。途中、30分ほど木陰で休憩をとったが、再開後、気分が悪くなりトラックの荷台上にうずくまり意識を失った。



原因

- 炎天下にさらされる場所で作業を行っていた
- 気温が高い中での作業にもかかわらず、休憩時間が十分でなかった
- 作業者の健康管理を行っていなかった

対策

- 作業中に水分や塩分をこまめに補給する
- 直射日光を避けるなど、作業環境の改善と休憩場所の確保を行う
- 安全衛生管理体制を整備し、的確な管理を行う
- 日頃から健康教育を十分に行う

いつもと違うと思ったら、熱中症を疑ってください

作業中、自分自身が普段とは違って何か体調がおかしかったり、仲間の様子が変に感じたりしたら、熱中症の一步手前かもしれません。

あれっ？何かおかしい

手足がづる

めまい、吐き気がする

汗が止まらない

なんとなく体調が悪い



あの人、ちょっとヘン

イライラしている

フラフラしている

呼びかけに反応しない

ボーッとしている

すぐに周囲の人や現場管理者に申し出て
直ちに作業中止し、「119番」に連絡を！